

文書等並べて迎る、家康、松平一族・家臣

徳川家康 75年の生涯 年表帖

上巻 (全3巻)



その時、今川氏(義元・氏真)・織田氏(信秀・信長)・
武田氏(信玄・勝頼)・北条氏(氏康・氏政)らは

目次

松平氏・水野氏関係図	表紙裏
はじめに～この本の使い方～	2
目次年表	3～9
関連城跡位置図(愛知県)と写真	10～15
徳川家康75年の障害年表帖(上巻)	16～246
上記内 関連城跡位置図(静岡県)と写真	102～107
上記内 関連城跡位置図(山梨県)	247
主な参考文献	248～255
あとがき、奥付	256
松平氏系図	裏表紙裏

はじめに～この本の使い方～

この本は、徳川誕生から武田方の高天神城奪取までの戦国期の年表で、日付までを記載しています。一部不明な月・日付に関しては、「一」で割愛をさせて頂いたり、「秋」「下旬中旬」などと、表記しておりますのでご了承下さい。

特に重要と思われる事項(歴史的流れのために必要と思われる事件等。

■は京都、他地の事項)、家康文書などは、太字で記載しております。

本体となる戦国年表はそこそこな分量となっております。目次年表は、圧縮しており、その項目の通しNoが記載されております。検索の一助として下さい。

～太陰暦・太陽暦について～

本書での月日の表記は全て和暦を採用しており、一部、西暦の表記とはズレが生じています。

日本では、明治5年12月3日(=明治6年1月1日(西暦1872年1月1日))までは太陰暦(旧暦・天保暦)を、それ以降は太陽暦(新暦・グレゴリウス暦)を使用しています。

そのため、太陰暦である和暦(旧暦・天保暦)の月日と、それに対応する太陽暦である西暦(新暦・グレゴリウス暦)の月日は一致しません。ご注意下さい。

なお、太陰暦(太陰太陽暦)の1年は太陽暦の1年に比べて約11日短く、このズレは3年で約1月分(約33日)となります。

このため約3年に1度、余分な1ヶ月(閏月)を挿入して1年を13ヶ月とした閏年を設けることで、ズレを解消しています。

なお、閏月は閏●月と表記し、仮に閏4月があった場合、これは通常の4月の後に閏月(閏4月)が挿入されていることを示しています。

例) 徳川家康誕生: 天文11年12月26日(西暦: 1543年1月31日)

西暦 和暦	月日	出来事	No.
大永6 (1526)	4月29日	家康父仙千代(松平広忠)、生まれる。	1002
天文4 (1535)	12月5日	森山崩れ(守山崩れとも) 一家康祖父・松平清康、死去。	1012
天文10 (1541)	—	「広忠の政略結婚—松平氏と水野氏が和議を結ぶ」。岡崎城主松平広忠(家康の父)16歳は、水野忠政娘・於大の方(のちの伝通院)14歳を娶る。	1052
天文11 (1542)	12月26日	家康(幼名・竹千代)、三河国岡崎城で生まれる。	1060
天文13 (1544)	9月—	「竹千代(家康)は3歳にして母と生き別れになる—松平氏の生き残り策」。父・松平広忠と母・於大の方離婚	1076
天文14 (1545)	3月19日	「広忠(家康父)、後妻を娶り田原城主戸田弾正の婿となる」。松平広忠が、戸田弾正康光娘・真喜姫(田原御前)を娶る。	1084
天文16 (1547)	8月2日	6歳の竹千代(家康)を今川家の人質として駿河に送るも、田原城戸田康光(宗光)により、織田信秀に奪われる。	1114
天文16 (1547)	9月5日	「田原戸田氏滅亡—今川氏、三河全域を勢力下におく」。今川義元・松平広忠(家康の父)、戸田康光(宗光)の三河国田原城を攻撃し落城させる。	1119
天文18 (1549)	3月10日	家康8歳父・松平広忠(24歳)没—松平氏は二代続けて当主が横死—三河の支配権は今川義元へ移り、岡崎城は今川家臣の城代がおかれる。	1145
天文18 (1549)	11月10日	「家康、岡崎へ帰る—今川・織田人質交換」。三河西野笠寺で織田信広と竹千代との人質交換。	1161
天文18 (1549)	11月27日	「家康、駿府に送られる」。松平竹千代(後の家康)、この日、駿府(静岡市葵区)に赴く。	1165
天文20 (1551)	1月1日	竹千代(後の家康)、駿府館で新年賀す。	1189
天文24 (弘治1) (1555)	3月15日	「家康元服—今川氏配下になる」。松平竹千代(後の家康)14歳は、この日、今川氏の下、浅間神社で元服し「次郎三郎元信」と名乗る。	1242
弘治2 (1556)	5月—	松平次郎三郎元信(後の家康)は、この月、今川義元の許可を得て7年ぶりで墓参りと称して岡崎に帰る。	1263
弘治2 (1556)	5月26日	将軍足利義輝、松平元信(のちの徳川家康)からの駿馬嵐聊献上に感状。	1364
弘治2 (1556)	6月24日	松平次郎三郎元信(後の家康)、大仙院俊恵蔵主へ、大仙寺(のちの大泉寺)寄進状及び制札を下付。家康署名の最初とされる。	1270
弘治3 (1557)	1月15日	「家康婚姻—今川一門に準じる」。松平元信(のちの家康)16歳、今川義元の命で、今川館で「鶴姫(瀬名姫)」(今川義元の姪、後の築山殿)を娶る。	1284
弘治3 (1557)	2月5日	「家康、家臣の松平家再興の悲願を知る」。松平元信(家康)、岡崎に帰国する。鳥居伊賀守忠吉、御蔵の中を元信(家康)に見せる。	1285



大桐寺山門 写真提供：岡崎市



岡崎公園 しかみ像と能楽堂
写真提供：岡崎市



東照公えな塚 写真提供：岡崎市



徳川家康公像 写真提供：岡崎市



形原城跡 提供：蒲郡市観光協会



上ノ郷城跡 提供：蒲郡市観光協会



御旗山 提供：長久手市



古戦場公園 提供：長久手市



古戦場伝説地(正面) 提供：豊明市観光協会



今川義元公墓 提供：豊明市観光協会



桶狭吊古碑 提供：豊明市観光協会



安城城跡 提供：安城市教育委員会

西暦1569

永祿12	1月18日	「掛川城攻防戦―金丸山砦の戦い」。 今川方日根野備中守弘就・弟彌次右衛門盛就・彌吉郎数百、徳川方金丸山砦(掛川市下俣)を急襲する。 徳川方久野宗信(宗能)、敗退。小笠原氏助(氏興)(1529～1569)が救援するも敗北。岡崎衆援軍も日根野弘就の返し来た攻撃により岡崎勢敗走。 作り花の梅を胃の前立にして勇氣勃然と華々しく殿した城方梶原平三郎に、敵味方称賛。家康は敗軍に怒る。	1915
	1月18日	北条氏政(1538～1590)、その勢4万5千をもって由井・蒲原らに布陣、武田信玄(1521～1573)は、興津河原に1万8千をもって対陣する。 この頃家康は、上杉輝虎(謙信)と懇親を結び、氏政の父・北条氏康は輝虎(謙信)に対し、信濃に出兵することを求めた。信玄は信長に対し、輝虎(謙信)との講和を斡旋してくれるように頼む。	1916
	1月20日	「掛川城攻防戦―袋井口合戦―徳川家康、今川氏真に勝利」。 今川方、小倉内蔵助勝久・藤田弾正2百、城より出て袋井口川端に陣。徳川方高天神城小笠原勢これを見て攻め寄せ撃破される。 そこで家康はさらに援軍送り、掛川勢は敗走。討死数百人。	1917
	1月20日	久野宗益・久野宗政・久野采女佐(祐)方が、久野宗能(1527～1609)の久野城(静岡県袋井市鷺巣字上末本)に、今川家への帰属を促すための使者となる。	1918
	1月20日	「今度宛知行事 一百貫文 棚草之」。 徳川家康、小笠原与左衛門(清有)に、遠江国棚草郷内等を宛行。	1919
	1月20日	「今度之忠節無比類候、喜悅異他候」。 家康、奥平喜八郎(奥平信光)(?～1630)に書状を送り、その忠節を賞する。	1920
	1月21日	■「本國寺の変」を受けた織田信長、将軍に堅固な居宅を目論み、勘解由小路室町真如堂(前將軍義輝二条の館跡)に、將軍義昭の新第(二条城)の造営に自らが奉行となって着手する。二月二日、大がかりな工事がはじまる。	1921
	1月21日	「掛川城攻防戦」。 徳川方小笠原与八郎氏助(のち信興)19歳(1551?～1590?)、掛川城を攻める。 今川方安藤九右衛門が勇戦。今川方西郷監物丞信房、天王小路で1番鎚。興津から供してきた富永右馬助奮戦。	1922
	1月22日	今川家への帰属を促すための使者が来た。 久野城(静岡県袋井市鷺巣字上末本)の久野宗能(1527～1609)は、本間五郎兵衛長季を徳川家康へ遣わす。久野城副将久野宗憲は、使者を蔵に押し込めた。 宗能から伝えられた家康は、桜井松平忠正(1543～1577)、植村家政(家存)(1541～1577)、三宅康貞(1544～1615)らを久野城本丸に配置。宗能は二の丸に移った。宗能は使者の一人、久能宗益を討ち取る。 今川掛川勢が久野城を攻めるも、伏兵大須賀康高(1527～1589)、大久保忠世(1532～1594)、松井忠次(松平康親)(1521～1583)、本多広孝(1528～1598)、水野忠重(1541～1600)によって返り討ちにされた。 久野宗常自害、久野弾正忠宗政ら一族追放。	1923
	1月22日	「掛川城攻防戦」。 今川軍、天王山本陣へ夜襲に向う。徳川軍、一の伏に大久保忠世と二の伏水野忠重の前を通らせ、三の伏大須賀康高の前を通る時攻撃する。	1924

西暦1569

永祿12	1月23日	「掛川城攻防戦―遠江天王山の戦い」。 今川軍は城内へ引き、徳川軍追撃。 酒井忠次、西町口、馬場口を破り城内松尾口まで攻入る。 松平甚太郎、南町口より寒大寺川を渡り、二の門を攻め破って城内に入り太鼓門に至る。 石川数正、東門より入り、天王山の日比野備中守三兄弟と戦う。 内藤正成・渡辺守綱・服部正成、北門より攻入る。 徳川方林藤左衛門・加藤孫次郎・松下新助・小林勝之助・原頼重討死。 徳川方松平与一郎勝吉、南金井村において討死。村松源左衛門尉武備、今川方の2人の兵を斬り、鉄砲に撃たれ負傷。大久保忠佐、今川方の近松丹波守を討つ。 一番槍の熊谷七十郎は、徳川方水野忠重に討たれる。 徳川方椋原治右衛門、日比野氏従者伊藤武兵衛(槍大将)を討つ。 徳川方水野正重、日比野彌七を討ち取るも、日比野弥吉と戦い胴腰を射られ重傷。 徳川方水野忠重、今川方の勇士伊藤武兵衛・大谷七十郎を討取る。 徳川家康、天王山城(掛川古城)奪還の今川氏真軍と戦い、なんとか勝利を収めたものの、膠着状態が続く。	1925
	1月25日	「掛川城攻防戦」。 家康、見付(静岡県磐田市見付)へ引く。家康は兵糧攻めに切り替えた。	1926
	1月25日	「掛川城攻防戦―各和城の戦い」。 徳川方金丸山砦(静岡県掛川市長谷)の久野宗信(宗能)・佐渡宗憲・本間五郎兵衛長秀が、今川方各和城(掛川市各和字山下)の各和三郎左衛門肥後守元達・老臣茨藤左衛門を攻める。各和元達は腹を十文字に切って自害。家老朝比奈角右衛門は逃げる。 原六郎頼延は、落城と共に出奔し武田氏を頼る。	1927
	1月25日	武田信玄(1521～1573)、山県昌景(1529～1575)2千5百を丸子砦(静岡市駿河区丸子)に置き、久能砦(駿河区根古屋(久能山東照宮))の今福浄閑斎(友清)(1513～1581)に人質を移す。 武田信豊(1549～1582)1万は、薩埵峠(静岡市清水区由比西倉澤)に陣する。信豊は、武田信繁(武田信虎の子で、信玄の同母弟)(1525～1561)の子。 夜、北条氏康・氏政4万5千は、松田憲秀(?～1590)・北条常陸介綱種(綱高)(1506～1585)・大道寺政繁(1533～1590)を先陣に三島心経寺を出陣。蒲原・由比に到る。 北条氏規(氏康の五男)(1545～1600)・北条綱成(1515～1587)・梶原備前守景宗(?～?)の兵船3百艘5千は、三保海岸上陸を図るが逆風の為失敗する。	1928
	1月26日	「今度被行知行事 右、五石半之飛鳥内一色百式拾俵式斗俵也、井前々屋敷分有由緒、令訴訟候間、為新給恩出置畢、永不可有相違、守此旨弥於令奉公者、重而可加扶助者也、仍如件」。 徳川家康、石谷十郎右衛門(政清)(1503～1574)に、遠州佐野郡飛鳥120俵宛行。	1929
	1月26日	「第二次薩埵峠の戦い」。 武田先陣跡部大炊助勝資(?～1582)・2陣内藤修理亮(昌豊、昌秀)(1522～1575)は、興津川を越え、北条先鋒・松田尾張守憲秀と薩埵峠(静岡市清水区由比町西倉沢)で戦い、負けて退く。 北条氏政軍、薩埵山八幡平に陣し信玄1万8千と興津川挟んで対峙。	1930
	1月26日	武田軍、興津城(横山城)(静岡市清水区谷津町)で、北条氏邦(北条氏康の四男)(1541～1597)を迎え撃つ。	1931

西暦1569

永禄12	1月27日	今川氏真(1538～1615)、上杉輝虎(謙信)(1530～1578)に使僧質首座を送り、北条氏康(1515～1571)と和し、信濃に兵を出して、武田信玄(1521～1573)を牽制せんことを求む。	1933
	1月27日	武田家臣穴山信君(梅雪)(1541～1582)、徳川家康(1543～1616)に、掛川城の動静について尋ねる。	1934
	1月28日	「 今度宛行本知改替之事 一貳拾六 」。 家康、朝比奈十左衛門尉・同大良(太郎)右衛門尉・同主水佐に本知の替地として「一、六拾九貫　いろう・初倉」を充て行う。いろうは、井籠 ^{はいばらぐん} で榛原郡の内。佐野郡初馬(掛川市初馬)26貫・千羽(掛川市千羽)45貫、石岡・日坂125貫、東山(掛川)30貫、榛原郡質侶庄湯日村・鎌塚(島田)百貫・色尾(島田)・初倉69貫、君島(島田)40貫、金谷郷深谷村15貫、金谷郷・菊川郷15貫(内鶴見佐渡守分)。 今川氏配下朝比奈氏が、家康配下となった。	1935
	2月一	北条氏康、上杉輝虎(謙信))に、使僧天用院・遠山康光(?～1579)を使いとして送り和を請う。	1936
	2月一	武田信玄、里見氏・佐竹氏・宇都宮氏に小田原を攻めるよう要請。さらに足利義昭に、謙信との和睦を要請する。	1937
	2月一	武田方駿府城の山県昌景(1529～1575)1千5百は今川軍に攻められ、叶わず久能城(静岡市駿河区根古屋)に撤退。	1938
	2月1日	「第二次大宮城の戦い」。 穴山信君(梅雪)(1541～1582)・葛山氏元(駿河国葛山城主)(1520～1573?)1千、今川方大宮城(静岡県富士宮市城山)の富士藏人信忠(?～1583)・その子信通(?～1619)らを攻め敗退した為、甲斐との往還路封鎖される。	1939
	2月2日	■織田信長の 将軍義昭の新第(二条城)の造営、十一ヶ国衆の普請という大がかりな工事で、はじまる。石積みを西側より始める。	1940
	2月2日	「 今度宛行本知行之事 一貳百貫文 」。 家康、江馬弥三(一成)に、遠江国里之郷2百貫文・嶋之郷3百貫文・西鴨郷22貫文・舞阪31貫文(船5艘)を安堵。 永禄11年(1568)12月に亡くなった曳馬城家老・江馬時成の子で、徳川氏の人質となっていた一成という。船5艘は、「今切」の渡船として使われたものとされる。	1941
	2月4日	■織田信長、徳川家康に、遠江国出兵につき、船・軍勢を派遣する意思を伝える。	1942
	2月4日	■織田信長、徳川三河守家康の改年祝儀の鯉贈呈を謝す。	1943
	2月10日	「 入手江被陣取之由、不相届儀共候 」。 気賀堀川一揆堀江城攻撃を目指す徳川家康、松平紀伊守(形原松平家忠)(1547～1582)に、入出へ陣し宇津山城(湖西市入出)を奪い返させ在番命じる。	1944
	2月11日	「 被寄存陣中迄為御音信白鳥并鱈 」。 徳川家康、尾張国の賀藤図書助(加藤順盛)(1514～1588)に書状を送り陣中見舞いの礼を述べる。 加藤家は熱田の豪族で、織田信秀(信長の父)の保護によりこの地での実権を握っていた。加藤家は順盛の父の代で東西に分かれ、順盛は東加藤 ^{はなづか} と呼ばれた。竹千代(後の家康)が織田家の人質となった際は、順盛が羽城(名古屋市熱田区)にあった屋敷で養った。さらに、桶狭間の戦いの際は、戦勝祈念で熱田神宮を訪れた織田信長を出迎え、戦いを支援したという。	1945

西暦1569

永禄12	2月16日	「 家康と信玄が和睦一「第一次甲相同盟」は破綻 」。 武田信玄、徳川家康に、信玄が家康に対する疑心は無いものの家康に対し誓詞の提出を求め、家康がそれに応じた事に対し、信玄も血判を提出する事を約し、正式に和睦が成立する。	1946
	2月18日	「 自輝虎御尋、本望至候、抑駿・甲 」。 家康は、上杉輝虎の臣河田長親(1543?～1581)に遠江国における戦況を報せ、掛川城(掛川市掛川)の今川氏真を包囲したことを伝える。 家康は付城を築かせて攻撃態勢を固めて、兵糧攻めに切り替えていた。	1947
	2月19日	「 今度宛行浜松之荘之内本知之事 」。 家康、松下筑後入道(高信)に、所領浜松庄内(因幡郷・宇布見国本所・志戸呂国本所・嶋国本所・新橋国本所堤共・人見国本所・寺嶋郷諸給共・新豊境山・里郷半分諸給共)御厨郷内(西嶋・大立野・新田・鎌田・次男市)計千貫文余安堵。 松下高信は、頭陀寺近辺を支配した松下為雲の長男という。	1948
	2月23日	「今廿三日下條志摩守罷婦如申者、向懸川取出之地ニヶ所被築、重而四ヶ所可有御普請之旨候、至其儀者、懸川落居必然候、當陣之事、山半帰路以後、彌敵陣之往復被相留候之條、相軍敗北可為近日候、可御心安候、随而上野介・朝比奈駿河守・小原伊豆守人質替、寂前之首尾相違、貴殿へ不申理候由、御述懷尤無御余儀候、惣而駿州衆之擬、」。 武田武将・山縣三郎兵衛尉(山県昌景)(1529～1575)、徳川武将・酒井左衛門尉(酒井忠次)(1527～1596)宛に、事前の約束に反して今川方と無断で人質交換を行ったことへの謝罪をし、掛川攻囲の様子を訊き、駿河衆の反乱について語り、徳川・武田両氏の協力関係を記す書状を送る。	1949
	2月25日	「 気賀堀川一揆一字布見砦の戦い 」。 大沢基胤(1526～1605)、堀江城(浜松市西区館山寺町堀江)より城兵打って出て徳川軍と一戦する。 その後、今川方の大原資良(小原鎮実)(?～1570)と相談し宇布見砦(雄踏町)を押し破り、徳川軍の海賊船半分以上奪取し、周辺の農民に一揆を蜂起させる。	1950
	2月26日	「 今度宛行本知行之事 一字間郷諸 」。 家康、都筑惣左衛門尉(秀綱)(1533～1600)に、字間郷・下平河(朝比奈八郎二郎分)・屋敷分都合5百貫文を安堵。 秀綱は、家康が直属軍強化のために新設した旗本先手役の一員に加えられた。以後は部隊長・本多忠勝の与力となったという。	1951
	2月28日	徳川軍に攻められ佐久城(浜松市北区三ヶ日町大崎)の大屋安芸守政頼が開城。 大屋金太夫頼次・大屋吉太夫政頼・大野助藏・中根権兵衛・桐生与太夫・安万伊賀守は、本多忠勝(1548～1610)に属す。 安形伊賀刑部左衛門・石原孫次郎・大矢庄左衛門は、戸田忠次(1531～1597)に属す。 家康は、本多百助信俊(1535～1582)を守備させる。 戸田忠次は、永禄6年(1563)からの三河一向一揆のときには、家康に離反して佐崎の本證寺に立て籠った。ただ忠次の場合は他の者と違い、家康の機嫌を損ねたため寺側に付いただけで、心からの離反ではなかったという。戦の途中に寺の外構えを焼いて出てきたので、家康の機嫌も直り再び味方となったという。	1952

西暦1569

永祿12	3月2日	「 為河辺替地、遠州之内七百貫文遣 」。 徳川家康、西郷左衛門佐清員（1533～1595）に、三河国河辺の替え地として遠江国の所領を与える。	1953
	3月3日	久頭郷城（高根城）（浜松市天竜区水窪町地頭方）の奥山民部少輔貞益、武田方の信州遠山郷の奥山美濃守定茂・遠山土佐守景則に攻められ討死。 遠江侵攻を目指す甲斐武田氏の指示という。高根城は武田軍の拠点として大改修が行われる。	1954
	3月4日	「 掛川城攻防戦 」。 東条松平甚太郎家忠（1556～1581）・松井忠次（松平康親）（1521～1583）、大手南口を破り寒大寺河原を廻り塩買が淵へ進む。 水野忠重（1541～1600）、搦手西宿町口を破り松尾池へ進む。 徳川軍、東口天王小路にて合戦。 家康、掛川城攻撃を再開するも、落ちず 。	1955
	3月5日	「 掛川城攻防戦 」。 家康、自ら出馬して大手南町口・西町口・松尾曲輪・天王小路などを攻めたが、落ちず 。	1956
	3月6日	「 □□広忠靈儀増長菩提 奇進洪鐘 」。 家康、三河国浄珠院（岡崎市上和田町字北屋敷）に鐘・鐘楼を寄進する。	1957
	3月7日	「 掛川城攻防戦 」。この日も城下の西宿と天王山下で激しい攻防戦が繰り広げられ、両軍に相当の死傷者が出た。今川方は、掛川城将朝比奈小隼人・伊藤治部を含む百八十余名が討死。 家康は、一度、三河に引き返すことになる 。	1958
	3月7日	北条氏政（1538～1590）、遠山康光（？～1579）を上杉輝虎（謙信）（1530～1578）の許に遣わし、武田信玄との対陣の切迫せるを告げ、急ぎ信濃に出兵せんことを求む。	1959
	3月8日	家康、引馬（浜松）へ引き上げる 。 徳川方の高蘭城（浜松市浜北区高蘭）浅原主殿助と、今川方小倉勝久とが講和交渉。	1960
	3月8日	「 掛川城攻防戦一家康、和睦を図る 」。 武田信玄の手が遠江国にまで伸びてきた。家康は、信玄の謀略を封ずるため、今川氏真と和約したほうがよいと考え、この日、氏真に対し、駿河を回復してやるから掛川を渡せと要求する 。	1961
	3月8日	「 今度於金葉師、別而依有奉公、新 」。 徳川家康、大村弥兵衛（高信）に、武田軍のほんかう山城を小笠原左衛門と攻落した金葉師における戦功に、榛原郡勝間田・麻生8百貫文宛行。	1962
	3月10日	武田信玄、織田信長に、甲越和与成立に向けた御内書が足利義昭から発給されるよう働きかけを要請する。	1963
	3月12日	「 気賀堀川一揆、家康が浜名に至った所を出て阻む 」。 元堀川城主・新田友作入道喜齊の三男名倉為高が、家康に通報。 渡辺図書の意見にしたがって家康は、兵の服を着、17騎で古美村（湖西市古見）へ。船に乗って宇布見村（雄踏町宇布見）へ。地頭中村源左衛門の案内で川舟に乗り、浜名湖東岸の小藪村（浜松市中区富塚町）に着き、翌日、普濟寺（浜松市中区広沢）に去る。さらに、家康は引馬城（浜松城）に入城した。 堀川勢から逃れて、難を逃れた家康、匿った老婆に「目どうり八丁」の土地与える。	

西暦1569

永祿12	3月12日	「 気賀堀川一揆 」。石川数正（1533～1592？）・渡辺図書数百騎と、堀川一揆が戦う。 今川方斎藤兵衛大輔為吉は、堀川城外に討死。 この斎藤為吉が堀川城を築いたともいう。	1965
	3月13日	上杉家臣・河田重親（1531～1593）、徳川家臣酒井忠次（1527～1596）・同石川家成（1534～1609）に、初めての交渉に感謝し、三河・駿河両国の状況について了解したことを伝える 。そして、徳川方と今川氏との和睦を使者から知り、上杉方と徳川方の交渉にも期待すると伝える。	1966
	3月19日	「 気賀堀川一揆一堀江城の戦い 」。徳川方井伊谷三人衆、堀江城（浜松市西区館山寺町堀江）（本丸大沢左衛門基胤・三の丸中安兵部少輔種豊・権田織部佐泰長）攻め、鈴木三郎太夫重時（1528？～1569）、一番槍競って狙撃され討死。	1967
	3月22日	家康、三河国明眼寺に、恵心作阿弥陀像を所望し、家康持仏堂に安置することを伝える 。明眼寺は、現在の妙源寺（岡崎市大和町杣市場）。	1968
	3月23日	上杉輝虎（謙信）の南下を恐れた武田信玄は、織田信長（1534～1582）との交渉のために京都武田屋敷の謀臣・市川十郎右衛門尉に命じ信長に働きかけさせ、その斡旋により甲越和睦を実現、信玄自身は、北条氏に当たり得るよう画策する。	1969
	3月25日	「 気賀堀川一揆一堀江城の戦い 」。 井伊谷衆の近藤石見守康用、その子登之助秀用、瀬戸の鈴木三郎大夫重路、都田菅沼治郎右エ門忠久・野田菅沼新八郎定盈父子らが、堀江城を攻める。 堀江城主・大沢基胤（1526～1605）は遠江における今川方最後の拠点として激しく防戦した。	1970
	3月27日	「 気賀堀川一揆一第二次堀川城の戦い 」。 家康（1543～1616）3千は、干潮時に名倉常閑（新田友作入道喜斎の次男）に案内され、今川勢力下にあった気賀の土豪が集まる、堀川城（浜松市北区細江町気賀）を包圍する。元は朝廷の官職であった竹田高正、今川義元の家臣であった尾藤主膳・山村修理らは大沢基胤に味方し、堀川城（新城）を築き、住民の約半数も籠城したという。堀川城では、大手尾藤主膳高明・奥表口山村修理と家臣武田奎之進ら1千5百が籠城するを攻める。 徳川陣では、藤井松平勘四郎信一（1539～1624）・榊原康政（1548～1606）が堀川城を先登する。 城将尾藤主膳は堀江城に逃れたが、同城も徳川方と和睦開城するに至り、もはやこれまでと切腹。竹田高正は燃え落ちる城内で切腹。山村修理は小舟で城を落ちたが小引佐まで逃れたところで切腹。 新田四郎は剃髪して喜斎と号していたが慶長11年8月、代官石川半三郎康次（数正の三男）によって捕縛、処刑された。日は異説あり。	1971
	3月27日	「 気賀堀川一揆 」。家康、山田半右衛門に命じ、気賀にて184人獄門嘔。7百赦す。気賀地区住民半分が戦死・斬殺される。 堀川一揆の後、日坂八幡山（掛川市日坂）の一揆が徳川軍に攻落される。	1972
	3月一	■織田信長、山城国誓願寺泰翁長老へ、「参銭」等を安堵。また「如近年可為一職」を安堵。大林寺（岡崎市魚町）の第四世住職・泰翁（1500～1574）は、弘治2年（1556）京都に移り京都誓願寺の住職となる。その際、家康の三河支配正当化のために徳川姓と三河守任官に尽力したという。家康は、諏訪明神の傍らに寺を建てて泰翁に与えた。これが岡崎市梅園町の誓願寺（諏訪山泰翁院）の興りという。	1973

あとがき

本書(上巻)は、天文11年(1542)家康誕生あたりから天正9年(1581)3月22日家康、高天神城を奪還するまでの軌跡を記載しました。

翌年6月には、「本能寺の変」が勃発いたします。

幼児期の母との別れ、図らずも織田家の人質、さらに今川家の人質、駿河での元服、瀨名姫(築山殿)を娶る、寺部城攻め初陣、桶狭間の戦い、岡崎帰城、三河での戦い、織田家との同盟、三河一向一揆、徳川氏に改姓、武田氏同盟と手切れ、本拠を浜松城に移す、上杉氏と同盟、三方ヶ原で惨敗、長篠の戦い勝利、正室築山殿殺害・嫡男信康自刃、高天神城奪取など戦いに明け暮れた月日、和睦・宣戦と目まぐるしい激動の徳川家康波乱の時代を垣間見て頂き、「大河ドラマ」視聴を楽しんでいただきましたら幸いです。

編集にあたり、別記主要参考図書や国立国会図書館デジタルコレクション、東京大学デジタルコレクション、国の公式WEB、各自治体・各大学・各団体WEB等、大いに活用させていただきました。しかし、資料による違い、異説、物語などあらゆる事項があり、すべては、弊社の編集責で掲載しております。

最後になりましたが、写真提供などしていただいた愛知県・静岡県の自治体及び各機関様、また、ご協力いただきました取材先様、スタッフの皆さまに、厚く御礼申し上げます。

写真協力

(一社)豊橋観光コンベンション協会 豊明市観光協会 岡崎市 田原市博物館
安城市教育委員会 蒲郡市観光協会 新城市観光協会 長久手市 静岡県観光協会
浜松・浜名湖ツーリズムビューロー 掛川市 藤枝市郷土博物館 清水町教育委員会
鳥越一朗 (順不同)

文書等並べて辿る、家康、松平一族・家臣 徳川家康75年の生涯年表帖 上巻(全3巻)

その時、今川氏(義元・氏真)・織田氏(信秀・信長)・武田氏(信玄・勝頼)・北条氏(氏康・氏政)らは

第1版第1刷

発行日 2023年2月15日

デザイン 岩崎宏

編集・制作補助 ユニプラン編集部

橋本豪

発行人 橋本良郎

発行所 株式会社ユニプラン <http://www.uni-plan.co.jp>
(E-mail) info@uni-plan.co.jp

〒601-8213 京都市南区久世中久世町1丁目76

TEL(075)934-0003 FAX(075)934-9990

振替口座/01030-3-23387

印刷所 株式会社ファインワークス

定価はカバーに表示してあります。

ISBN978-4-89704-568-9 C0021